

報 告 書

『老いること』三宅桂子先生講演会

．．．．．ジュネーブ日本倶楽部（JCG）文化部会．．．．．

日 時： 2011年3月4日（金）18時45分～20時30分
場 所： ジェトロ・ジュネーブ事務所会議室
講 師： 三宅桂子先生（ユング研究所）
題 名： 老年期の諸問題について一心理学の視点から
参加人数： 34名（内非会員2名）プラス ジェトロ職員2名

内 容：

山下部会長から三宅先生の紹介があり講演会は始まった。

始めに1分間の黙想をする。

その後、老年期の心理発達の特徴を60～70歳代と80～90歳代に分けての説明、老人病症候群としての各症状の紹介、薬による弊害、老年期のうつ病と認知症の違い、認知症とアルツハイマー病の定義、などを丁寧に解説する。

心理療法として回想療法（過去の感情の再構成によって、未来への視点を得る）

絵画療法・音楽療法・「今を生きる」などがあり、3つの事例を紹介される。

最後は介護の問題となり、介護者・家族をも含め老人医学や老年心理への関心と啓蒙教育が今後さらに重要になってくることを強調された。

高齢者の心理的理解の基本は「できることをする機会をうばわない」「できないことは無理強いしない」。人生の自然の流れに従いその時を生きる、晩年は当事者自身と介護者の双方がいかに「死への受容」をしてゆけるかが大切となる。日本では2020年には300万人の方が認知症と診断される予想が立てられている。こうした超高齢化社会へむけての介護や心理的援助は避けては通れない問題になってきた。介護者として老人のニーズをより理解することが大変重要である。

最後に良寛の歌を紹介された。年老いていくことへの気づき、恐れ、悟りなどが美しい詩として歌われている。

ここで先生の講演会は終了し、3分の休憩の後、質疑応答に入る。

日本にいる家族への対応への不安、老いていくこと、薬に対する不安などたくさん上がり、まだまだ質問は尽きない様子だったが時間の都合もあり会は終了となった。

講演会後は食事に行った。急の誘いにも限らず、12名の方が参加され、ご自身の体験を先生に相談され、大変な盛り上がりを見せた。

次回は11月を目処に三宅先生の講演会の準備をする。